

去る2月5日、中小企業庁等が後援する、一般財団法人企業価値協会から、企業価値の認定を頂きました。

日本中の中小企業の中から、半期に15社程度が認定されるそうで、UTOが25年積み上げてきたビジネスを評価していただきました。ファッション業界における企画・製造・販売の確立で、価格競争からの回避、売れ筋追求型とふるさと納税の貢献などが評価の対象でした。

17~18年度ふるさと納税で、全国から2億5千万円弱の寄附を頂きました。これで、3年連続で2億円を突破しました。岩手県北上市の企業市民として収入アップに貢献ができました。ご寄附頂いた皆様様に心よりのお礼を申し上げます。

もうすぐワールドカップモスクワ大会。頑張れニッポン！

【ふるさと納税・約2億5千万円】

昨年初めころは、ふるさと納税に対する誤解や聞きかじりの批判論が多く噴出し、重箱の隅を突くような報道でかなり混乱しました。誰が聞いても「それはないでしょう」というような金券が出回ったり、とつていその自治体の特産品とは言えないものを仕入れて返礼品にする自治体。そんな非常識な自治体より、ふるさと納税自体を批判する的外れの論調の報道に唖然としました。また、ふるさと納税は、地方税の20%を上限に、ほかの自治体に移すことなのに、地方税のすべてがなくなるぐらいに誤解している不勉強のコメントもいて、本当に驚きでした。

総務省が出てきて、金券的な返礼品の廃止等、常識の範囲でやっと決まりました。そして返礼品の金額は寄附額の3割以下ということになり返礼品騒動は静まりました。

「寄附に返礼は必要ない！寄附行為には見返りを求めない」という正論は私も理解できます。しかし、現実にはそれができる人は極く限られた人だと思いません。完全無欠のシステムより、寄附文化に馴染みがない日本に寄附を定着させる為にベターを求めて少しずつ良い方法を選ぶ方が現実的だと思えます。

北上市にUTOのカシミアを返礼品として、一昨年、昨年と約2億円の寄附をいただき、4割の返礼率で約8千万円の売り上げでした。今年度は2億5千万円の寄附を頂きましたが、9月から返礼率が3割になったので、寄附額は1億2500万だったのに、当社の収入はダウンの7千5百万になってしまいました。



報道に、生活をかけている民間の業者は必死に頑張つて寄附をいただいていることを理解してほしいです。寄附の返礼としてお送りしたカシミア製品に、喜びと励ましの言葉を沢山頂きます。本当に嬉しく励みになります。ふるさと納税は寄附者、自治体、業者の3方徳の画期的な画期的な企画です。長く続いてほしい。

【東日本大震災の被災者支援】

2012年以来毎年続けている東日本大震災の被災者への義援金を、4月26日、北上市役所を訪問して、高橋市長にお渡ししました。UTO knitの売上とカシミアの葉の販売、お客様から「寄附頂いたものに当社の募金分を足したものです。」6年目の今年も40万円を募金することができ、トータルで163万円になりました。



【青山・表参道界限】

UTOはこんな街から発信しています

骨董通りの飛行機屋さん

完成モデル専門店・ウイングクラブ

青山通りから骨董通りへ入って中ほど。左側のニッカ本社の隣のビル2階にWING CLUBという看板が見えます。階段を上ると、素敵な曲面のガラスケースの中に模型飛行機がズラッと陳列されて圧倒されます。ここはマニアにとっては垂涎のお店だと一目で分かります。1991年にオープンしたそうですが、私は翌年に隣のビルの6階でニッカアパレルを創業しました。もともとはお隣さんです。

名前の通り飛行機のマニア向けの希少なお店だと思ひ、一度は入ってみたいと思っていたら、後日、テレビ東京の人気番組の「なんでも鑑定団」に店主の矢野さんが、航空機の関連の鑑定士として出演されていました。そんな凄い店主がいらつしやる店。お客様ならそれこそワクワクでしようが、素人の私はハードルが高くなって入る機会を作れませんでした。今回この項を書くにあたって、了解を得るのとご挨拶のつもりで初めて足を踏み入れました。

予想通り小さなお店ながらもハイグレードでお洒落なお店です。オーナーの矢野さんは元タソニーミュージックのデザイナーをされていたそう、センスの良さが領けます。お店に伺うにあたって予備知識にとググって矢野さんの本を取り寄せました。2005年出版の、北原照久x矢野正幸著「好きなことをずっと仕事でやっていくために知っておきたいこと」という本

共著の北原照久さんはあの鑑定団のレギュラー出演者でもちやみこジヤムを経営されるカリスマ的なコレクターですが、その北原さんがおもちゃを集めるようになったのは矢野さんがきっかけで矢野さんは北原さんの師匠であり、矢野さんなしで今のおもちゃミュージアムは無いと言っているほどの方と知りました。

オーナーの矢野さんは5年ぐらい前にPS筋萎縮性側索硬化症という難病を発症され、不自由の体ながらも、お店に出られてお会いすることができました。矢野さんの意思の強さに脱帽ですが、こんな素敵なお店で好きなモデルに囲まれて仕事をできることは、ある意味うらやましく、不遜ですが、「不便だけど不幸ではないよ」とおっしゃっているような気がしました。学術品ともいえるほどの正確な縮尺の航空機が美しく並び、ディープなマニアの世界に浸るのも良い東京土産になるかも知れません。

鑑定団繋がりで1990年初めの創業頃、陶器の鑑定で「いい仕事してますね！」の中島さんが偶然にも通りの向かい側に「からくさ」という伊万里焼の店をやっておられて毎日お見掛けしていました。その後UTOは渋谷ビルを出て、骨董通りのビルと点々としたが今は、ウイングクラブの隣の隣りのたつむらビルです。



カシミア100%

ミラノリブ フレアー チュニック

5112-1008 ¥97,200(税込)

身頃と袖がAラインに広がる女性らしいシルエット。

ヒップが隠れるチュニック丈。



カシミア100% Vネック

ウエストシェイプ カーディガン

1112-2298 ¥66,960(税込)

ウエストが程よくシェイプされたポケット付きのVネックカーディガン。ノーマルな着丈で、着回ししやすいデザインです。



カシミア100% パフスリーブ

タートルネック プルオーバー

1112-1339 ¥58,320(税込)

袖口にギャザーの入ったパフスリーブのタートルプルオーバー。

ウエストを絞った女性らしいシェイプできれいに着こなせます。



企業価値認定受賞

カシミアとニットの話 * (60)

受賞理由

1992年創業。「岩手県北上をニットの聖地に！」を理念とする同社は業界でも珍しいカシミア専門のアパレルブランドである。特にカシミアニットにおける分野では高いブランド力を築いており、ニット生地には稀なカスタムオーダー対応が出来る。創業当時は全国のブティック店への売上が100%だったが現在では時代の流れとともにネット、自社ショールームでの販売を中心と事業展開中。その特徴・差別点は次の通り:

1. 日本国内で一貫した、企画・製造・販売のアパレル
2. 国内初のニットカスタムオーダーの販売を開始
3. 岩手県北上を世界に誇る、丁寧に優れたもの作りへ
4. 岩手県北上市をととしての社会貢献活動
5. 世界のトップクラスの原料を使用

このように同社は世界で戦うアパレルブランドを目指し岩手県北上にて事業拡大中。



2018(平成30年)年2月5日
東京・ノレスホテルにて

主催:一般社団法人企業価値協会
後援:中小企業庁、中小企業基盤整備機構
協賛:野村ホールディングス

受賞者を代表してお礼の挨拶をする、当社宇土

400万社以上もある日本の中小企業。そうそうたる企業の中に、UTOが認定されたのがいまだに信じられない。

企業価値認定



企業価値認定とは一般社団法人企業価値協会が「お客様や社会から強く必要とされる特徴的な価値を有する」と認めた企業に対して「企業価値」を認定する制度で、中小企業庁などが後援しています。2018年前期の賞にUTOが認定され、2月5日(月)東京の皇居の中にあるパレスホテルで認定書の授与式が行われました。

合わせて、そんな企業価値認定を受けた企業を3年ごとに再評価し、再認定するという制度もあります。その中に私の大好きな産業廃棄物処理の石坂産業が入っていました。再認定の石坂産業と一緒に受賞するとは大感激です。産業廃棄物処理業者といえは社会には絶対になければならないインフラのような本当に重要な仕事なのに、いまは世間の評価が低い産業です。近隣住民からもなんとなく敬遠される仕事ですが、この石坂産業は素晴らしい企業で、テレビ東京のカンブリア宮殿をはじめ多くの番組で紹介されています。

かつて石坂産業は近隣住民から排斥運動まで起こされたようです。今では廃棄物の粉塵が外にまき散らされることで近隣に迷惑をかけないように屋内で処理し、産廃の98%をリサイクルし再利用しているのです。そして会社の周りを、トンボやカブトムシが住み、沢山の子供たちが集まる里山を作るなどの社会貢献している凄いな会社で、しかもその社長さんは超人で私たち夫婦が大ファンの会社なんです。そんな石坂産業が再認定される賞に我々も認定されたことを改めて誇りに思います。

UTOはカシミアで、岩手県北上市をカシミアのメッカにしたいと思っています。東北の岩手は311の被災地。北上は内陸の方で沿岸地ほどの被害はありませんでしたが、東北人の気風でしょうか、おとなしくまじめな人たちがばかりで、仕事は丁寧に確実です。北上でカシミアニット作りをしていて感じることは、総じて西日本みたいに活発では無く、明るいニュースが少ないと常々感じています。

そんな東北に、カシミアというお洒落な製品の会社が頑張っていることを知ってほしい。世界中のカシミア関係者や愛好者が、「一流のカシミアといったら、岩手・北上!」と言うことで、日本はもちろん世界中からお客様に来てもらえるようにするのが目標です。

イタリアにモデナという小さな街があります。一般の人は知らなくても「T」や車ファンの人にはすぐに、「あーフェラーリの街ね!」とわかるそうです。そのように「カシミア」と言ったら、岩手・北上が、イメージの良いカシミアの街と言ってもいいくらいになることです。そんな街づくりに貢献できるように頑張りたいと思います。

世界のホテルを旅する(六十)

元 旅行屋のお勧め ラスベガス・USA

ホテル ミラージュ

アメリカを旅して感じたことの一つが、人を楽しませることで多くの人の生活を成り立たせる、いわゆる観光産業が発達していることでした。その横綱がラスベガスでしょう。

華氏100度(摂氏約40度)を超えることも稀ではない暑く乾ききった砂漠の街、ラスベガス。言うまでもない全米一のギャンブルの街、改め現在は世界一のコンベンションシティ。

何せ砂漠のここは年中いいお天気が請け合いですし、いつも世界的なショーをやっている、グランドの最高ステイジや客室が揃っているのだから大きなコンベンションの主催者でも安心して開催できます。

ラスベガスのホテルはお客様を呼び込むための『楽しい、驚かし』の競争です。もちろん今回のミラージュも他のホテルに負けないように、『楽しい驚かし』に、生活や人生を掛けています。

チェックインでフロントに行くと、カウンターの後ろの壁にまず驚かされます。フロントの後ろの壁の一面が水槽になっていて色鮮やかな熱帯魚が優雅に泳いでいます。その水槽は長さが10メートル以上もある水族館頭負の超ロング水槽です。ここはネバダの砂漠ではなく、カリブ海のリゾートにも来たような気分にならせてくれます。

部屋に続く熱帯の屋内ジャングルを通り抜けると広大なカジノが待ち受けて、ギャンブル好きには、ここで足を止めずにエレベーターに行くには大変な努力が必要です。

このミラージュをはじめ、ラスベガスのホテル宿泊料金は一流と言えどビックリするほど安いと思います。でもほとんどの人がルームチャージ以上のお金をカジノで落としていくのは確かでしょう。

もう一つミラージュには『楽しい驚かし』があります。よくクイズ番組で出題されるボルケーロのです。

ホテル正面に作られた築山にパームツリーが植えられ、周りには池で火山島を表現しています。約一時間に一回、その火山が噴火します。火と煙で音でかなりの迫力です。

これを見物に周りのホテルから続々と見物人が集まってくる。パフォーマンスが終わるとカジノと言う遊び場で見物人を落とさせる算段です。

こんな楽しい驚かしのために世界中から集まってくる。子供だましとか、バカバカしいと言ってしまうとすればそれまでですが、ここにいる間だけでもそれに嵌ってしまえば、それなりに楽しい時間を過ごせるホテルです。

